



◆あんしんリフォーム工事瑕疵保険の登録事業者として認定されました。

消費者が安心してリフォームを行えるよう、住宅瑕疵担保履行法に基づいて新たに整備された、リフォーム工事瑕疵担保責任保険の登録事業者として、りらいふは登録を受理されました。

登録事業者でリフォームを依頼すると、国土交通大臣から指定された住宅専門の保険会社(弊社は㈱住宅あんしん保証へ登録)の建築士が事前に現場調査を実施、万が一、リフォーム工事後に瑕疵があった場合に、補修に要する費用が発注者に支払われる(事業者が倒産した場合も)、という制度で、未熟な業者や、ずさんな工事を繰り返す悪質な業者などが登録ができないように排除し、万一の際の保証を約束することで消費者の方が安心してリフォーム工事を実施できるように設けられた制度です。

※ただし、保険のご加入は任意となります。

尚、保証期間は増改築や壁、屋根などを改修する場合は5年間、水回り(浴室リフォームなど)のみの場合は1年間となっています。詳細、もしくは資料等をご希望の方は弊社までお問い合わせください。無料にて送らせていただきます。弊社・お問い合わせフリーダイヤル

0120-1126-45

ホームページもご覧ください!

人気の工務ブログも更新中です!

りらいふのホームページはインターネットの検索キーワードで、**りらいふ** と打ってくだされば、ヤフーでもグーグルでも1ページ目に表示されます。URLは下記の通りです

<http://www.eco-relife.co.jp>



りらいふのリフォームは↓

- 小さなリフォームも!・・・洗面台や蛇口だけの交換も大歓迎です!
- 相見積もり歓迎!・・・他社に負けぬよう精一杯頑張ります!
- 追加請求なし!・・・勝手な追加請求は一切しません
- 責任施工!・・・弊社施工担当者が最後まで施工管理

下記ご用命の際には、弊社りらいふを何卒よろしくお願い申し上げます

- オール電化・・・三菱・ダイキン・パナソニック・日立・コロナ・・・他
- リフォーム・・・TOTO・INAX・クリナップ・パナソニック・ほか各メーカー取り扱い
- 太陽光発電システム・・・三洋・三菱・シャープ・京セラ

弊社フリーダイヤル 0120-1126-45



りらいふについて

創業から25年目を迎えます。当初の社名は(有)デンオンサービス。電気温水器の販売、施工を主としていた関係から、電温サービスとしていました。

平成16年に現在の社名に変更しています。

変更の理由は、エコキュートが電気給湯器の主流となったこと、リフォームの受注が増えてきた事で、ひとつの商品イメージを連想させる《デンオン》は適当でない、と考えたからです。

主な認定

- 関西電力はぴeスマイル店
 - TOTOリモデルクラブ会員
 - 一条工務店施工協力店
 - 増改築相談員の店
 - ヤマビシツカ加盟店・ほか
- 弊社代表 長瀬圭司 →



株式会社りらいふ

<http://www.eco-relife.co.jp>

〒589-0004 大阪狭山市東通風3-861-1

TEL.072-366-3630 FAX.072-366-3691



東日本大震災による被災地の皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

甚大な被害をもたらした東日本巨大地震。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された皆様、そのご家族の方々が一日でも早く通常の生活に戻れることを心よりお祈り申し上げます。

震災の影響

すでに発生から3週間が経ちましたが(4月1日現在)、想定をはるかに超えた被害の大きさから、ライフラインの復旧や、仮設住宅の建設なども思い通りに進んでいない、と聞いています。また、復興に必要な建築資材の不足も指摘されていますが、その影響は、彼の地より遠く離れた、ここ関西でも深刻になっています。

当社でも扱う合板などの建築資材、電線などの電材、水道管等の管材はもちろん、エコキュート、IH等の電化商材も入手が困難になっており、『いつになれば正常に戻るのかさえも分かりません・・・』と、あるメーカー担当の方が嘆いておられました。

また、システムキッチンやバスなどの住宅設備品にも影響は及び、TOTO、INAXなど、住設品を扱う各メーカーの一部の製品で納期回答不能、多くの製品で通常納期(2週間程度)の倍以上の遅延、という事態に陥っています。

※(正常に納品可能なものもあります。また、タカラスタンダードは影響が少ない模様です。)

『被災地のことを考えると贅沢は言えないけど・・・』と、必ず前置きをして気遣うようにしていますが、このような状態が長引けば、我々のような中小零細業者にとって深刻な経営状態に陥るのも明白で、心中は穏やかではありません。



オール電化の不安

当社のお客様にはオール電化のご家庭が多く、ご心配をおかけしています。

原発事故による電力供給の不安から節電の風潮が高まる中、《電気を大量に使うオール電化はいかがなものか?》といった論調の意見や批判を耳にされた方も多いのではないのでしょうか?

また、『長時間の停電になった場合、オール電化は不便・・・』との指摘もありました。

電気給湯器は余剰電力が発生する夜間を主としている上、特にエコキュートは電気容量もエアコン1台分程度なみ、と決して電気を大量に使う機器ではありません。

但し、IHクッキングヒーターの電気容量は大きく【節電と相反する】として批判的にさらされるのは理解できます。また、停電の時に調理が出来ないので不便だとも思います。

確かに、ガスコンロは停電時にも使えますが、停電が夜間の場合、暗闇の中で調理するのが快適だとは言えず、安全面でも問題がありそうです。

ガス給湯器も今では電気によって起動する製品がほとんどで、停電では使えない事になります。エコキュートは一部の機種では停電時でもお湯が使えるのもあり、断水時には貯まっているお湯を非常用水として活用も可能です。このように電気でもガスでも一長一短があります。

要は震災などの緊急時に備えてそれぞれの環境に応じて準備を怠らないことこそが肝要に思います。皆さまはいかが思われますでしょうか?

いざ!という時に備えて



エコキュート・電気温水器の

非常用水の取り方



停電時にお湯は使える?

タンクへお湯を貯める方式の給湯専用の電気温水器と、エコキュートの一部機種は、

①お湯が貯湯タンクに残っている事、②断水はしていないこと、の2つの条件さえ揃っていれば、不意の停電時でもお湯は使えます。

●停電時にお湯が使える電気温水器

給湯専用タイプの温水器であれば、丸型、角型を問わずすべて使えます。

全自動タイプの温水器では、三菱電機の全機種と日立(水道直圧)はお湯は出ません【水だけ出ます】

パナソニック、東芝製品は一部機種を除き給湯可能です。尚、停電時には全メーカー、機種共、自動湯はりや、給湯温度変更できません。温度も不安定になりやすいのでご注意ください。



丸型 角型

●停電時にお湯が使えるエコキュート

パナソニック、日立(水道直圧以外)、コロナのエコキュートは基本的に使用可能ですが、停電時の条件次第では使用不可になる場合もあります。

三菱電機とダイキンのエコキュートは原則お湯は出ませんが、ダイキンの場合、条件が良ければ使用可能です。湯はりや湯温コントロールが出来ない、等の内容は温水器と同様です。



非常用水の取り方

※断水になるとお湯は出ませんが、非常用水として活用できます。

基本的に電気温水器もエコキュートも非常用水の取りだし方は同じです。

但し、給湯専用の丸型温水器には非常用コックがありませんので、ここでは角型の手順としてご紹介いたします。

※メーカー、機種によってコックの位置など違いがありますので、必ず取り扱い説明書をご参考にしてください。

◆右の写真はエコキュート(角型電気温水器)の正面写真です。上部赤丸の部分に逃がし弁があります。中ほどにあるのが電源スイッチ、その下辺りが脚部カバーで、このカバーを外すと給水バルブや非常用取水栓がご確認できるはずですが、



① 本体の電源スイッチを切る。(停電時でも)



② 本体下部にある脚部カバーを外して、非常用取水栓や給水バルブの位置を確かめる。

※取水栓や給水バルブの位置は機種や設置状況により異なります。



③ エコキュートの給水バルブを閉める。

※右写真の赤いハンドルが止水栓です。時計回り(右回り)に回して閉めます。



右側に時計をまわす

④ 逃がし弁のレバーを起す。

(タンクへ空気を吸わせ、取水がスムーズにできるようにするためです)



⑤ 取水栓を開け、バケツなどに受けて使います。

と、このように簡単な手順ですが、日頃見慣れないものですので必ず取り扱い説明書をご覧いただきながら実施するようにしてください。

尚、取水した水は飲用には使用せず、トイレの洗浄水や洗濯などにお使いください。



大規模LED照明システム 結果ご報告



【re-life】25号でご案内しましたプレゼントの結果報告です。

10組近くの方からお問い合わせをいただき、一部の方を除いて下見やご説明に伺いました。その結果、ある神社(本殿の夜間ライトアップ用)が最も濃厚でしたが、当社のLED照明装置の能力ではとても役に立ってないことが分かり、残念ながら今回は見送ることになりました。

それから数週間後に発生したのが今回の震災でした。

未だに電気の通わない被災地もあるとのことで、『少しはお役に立てるかも・・・』と、思いましたが、1セットではかえって迷惑にならないか?とも考えました。

悩んでいても仕方がないので堺市役所にある【危機管理室】に赴き、当該システムの写真を示し、支援物資として活用できないか?と申しでると、『とりあえず現地のニーズを調査、結果は後日連絡いたします。』と、快く引き受けていただけました。

また、仮に被災地が必要としない場合、将来の緊急時(南海地震は必ず起こると云われています)に備えて堺市に置いてくださっても構わない、旨もお伝えしていますが、4月4日現在、返事はまだありません。

『なぜ、このような高価なシステムを無償で手放したがるのか?』とか、『なんと太っ腹な・・・景気のええ話やなあ・・・』とのご意見もいただきました。

確かに勘違いされるのも仕方がありませんが、残念ながら当社の景気はどちらかという悪い方です。また、私が太っ腹、というのも当りません(というか、むしろケチな方です)。

用を失ってしまった以降、売れるものなら原価割れでも売れたかった製品ですが、特注で用途が限られていたことなどが災いして売るに売れず、不本意ながらも長く倉庫に眠らせていました。

倉庫の片隅へ放置した状態ではあまり気にもならなかったのですが、もったいないので防犯用に使い始めてから気持ちに変化が起こり始めました。毎日、健気にも、という表現は無機質なモノに対して変ですが、倉庫の一隅をぼんやりと照らしてくれている存在に対し、不憫といいますか、なんとなく《申し訳ない・・・》という感情を抱くようになっていました。

自分自身の判断の誤りが原因で行き場を失わせてしまった・・・という負い目から由来する感情でしょうか。その感情の行き着いた先が、『無償でも構わないので誰か真に必要としてくれる方に使ってもらえれば・・・』と、前のご案内になった次第です。

しかし、結局は個人的な自己満足の世界の話をおこなうような場を借りて解決しよう、という身勝手でもしかも公私混同、それこそ【いかがなものか・・・?】であることだと少し反省しています。その点では、【re-life】をご覧いただきました皆さまに対して、お詫び申し上げます。

